

会派代表質問

新政ネット

石渡 登志男 議員



私たちは市民への奉仕者、それを忘れたら市政は成り立たないのだ！

これからの自治体は、住民の税金だけを頼りにするのではなく、お金がないなら、自らが稼いでいく。また、どの地域に行っても均衡ある本市の発展が理想の姿。さらに定住・移住については、市に魅力がないと難しい。

河川の氾濫の問題があるが、こんな状況では定住していきこうとはならない。皆が一致協力しながら、やはり考えていくべきだ。本市全体を気あるまちにしていこうこそ市民の願いであり、私たちが目指している。かなければならないことだと思っている。

問 認知症患者だが2012年度では462万人、2020年度では602万人、2025年度になると700万人を超えるという。認知症になられても、大網白里市で元氣よく過ごされることが大事。そこで、認知症対策において、予防も含め市はどのような対策を行っているのか。

答 地域で認知症の方やその家族を見守る認知症サポーターを養成し、今年度からは必要に応じて手助けするための対応スキル等を習得する認知症サポーターステップアップ講座を開催しています。早期発見の取り組みとして、認知症チェックリストをホームページに掲載し、地域で行われているサロンを訪問した際などに活用しています。さらに、認知症の不安を持つ方やその家族に対しては、物忘れ相談会を開催し、専門家から状態に合わせたアドバイスをしたり、認知症の専門医を含めた認知症初期集中支援チームにより、適切な医療受診や介護サービスにつなげられるよう支援しております。

問 では、認知症初期集中支援チー

ムだが、昨年度においてはどれぐらいの件数があったのか。

答 令和3年度では、支援チームで10名の方に対して支援を行いました。認知症、あるいは疑いのある人で行方不明になっている方は全国約1万七千六百人。行方不明になった当日に発見された場合の生存率は83%、翌日になると64%、5日以降は生存率がゼロ。

早期発見がいかに大事か。認知症の方が徘徊をしていても地域住民によって守っていこうではないか。

問 令和3年度の本市ふるさと納税は大変良い結果、さらに伸ばしているために今後はどのような対策を考えているのか。

答 返礼品提供事業者との交渉を始め新たに無洗米の追加や早場米産地の優位性を生かした新米の早期提供を行い、寄附の受入れ件数が7万5766件、寄附の受入れ額が9億9002万5千円という結果です。今年度の取り組みは、新たな返礼品を開発する事業者を支援するため、機器の購入やパッケージを新たに作成する費用に補助金を交付するふるさと納税地場産品開発等を支援事業を実施しているほか、新たにふるさと納税と契約し、寄附の受入れ窓口の強化を図りました。今後の取り組みとして、寄附者が本市に来訪し、市内の店舗等で地場産品の買い物や飲食、ゴルフ場などで利用できる電子クーポン、ふるさと納税払いチョイス券取扱店の拡大について、市内事業者の協力を進めてまいります。さらに、新たな寄附者の獲得に向け、都内23区を対象として新聞への折り込み掲載の実施について検討していきます。

このふるさと納税の寄附は、本市

の貴重な財源につながるはずだ。問 災害時における車中泊避難の対策について、以前私は同様な質問をした。

その時の回答が「車中泊避難を選択する方が増えることが考えられます。しかしながら、受け入れ側は避難者の把握や支援物資の提供に支障が出ることも考えられます。今後、対応策を研究してまいります。」と。では、市はどう考えたのか。

答 市は災害時の車中泊避難場所の確保等を目的として、コメリ店舗駐車場利用に関する協定を締結し、ベトナムなど多目的利用の合意を得るなど対応を図っているところでございます。

今後はさらにもっと増やしていっていただきたい。

市民の皆様方、ご家庭だけに限らず、車にも食料や飲料水、簡易トイレ等、そういったものを含めてご用意していただきたい。分散しながらストックしていくことが大事なことで私は思っている。

関連質問

堀本孝雄 議員

問 まず白里地区に子ども園設置について、ある保護者の方より疑問のお手紙を頂きました。披露させていただきます。(一部要約)

子どもの命への財政

白里地区の子どもの数の減少は特に進んでおります。こども園という形は必然と思われる。しかし、その施設は津波浸水区域内にある白里保育所という。避難場所は、白里小学校屋上で距離約1km、実際に地震(津波)が起きた時に園児を集めて避難をするためには徒歩であったり籠に乘せたり、先生の車であったりするでしょう。このような避難方法を保護者として「これは安全」と言えず非常に心配です。このような不

安全な状況の施設が乳幼児から未就学児が通う「こども園」施設が、この様な場所に市が良しと決めてしまったことに大きな問題があると思います。子どもたちが健やかに、安全に育っていけるための施設にお金を掛けることはどうして無理なことでしょうか。まずは、私たち保護者からの意見に対して応えていただきたい。そして子どもたちの命を最優先に考えた上で安全な施設を作って頂きたい。このような内容です。

答 しらさとこども園設置後も、より安全に確実に避難ができるよう津波避難訓練の充実に努めます。現施設(白里保育所)の老朽化などの問題もあることから、津波の不安がより軽減できる場所への移設も含め検討していきます。

問 国が行った調査では、ヤングケアラ(後述)が、中学生が5.7%、17人に1人、全日制の高校生は4.1%で、24人に1人だったそうです。が、本市の取組み状況はどうか。

答 ヤングケアラに関する相談は子育て支援課内の子ども家庭相談室を窓口としている。また取り組みとしては、まずケアラに関しての認知度を向上させるため講演会、教職員に対しての研修会の実施などとして実態把握に努めてまいります。

またこの度、県ではヤングケアラの調査を実施し、分析結果及び支援策を今年度中に取りまとめるとのことなので、本市はこれを受けて支援策を講じたい。

※ヤングケアラとは、本来なら大人が担うべき家事や家族の介護、身の回りの世話などを行っている18歳未満の子ども。

先日、聾者の方からご案内をいただきました。まして、「咲む」という映画を鑑賞してまいりました。主人公の藤田菜々子さんの熱演に感動しました。看護師の国家試験に合格しましたが、採用されませんでした。ある村で看護師が不足しているとの事で行きましたが、またしても採用されませんでした。したが、村おこしの課で担当を指名され、自転車で一軒一軒、ハガキを配って、相談にのっていただきました。聾者の主人公が人を喜ばせるために毎日一生懸命やっているのと、障害をもっている方から筆談で、「あなたはどうやって、その障害を乗り越えたんですか?」と質問されると、「私は乗り越えたのではなく、前に進んでいるんです。」と答えていました。物事を始めるチャンスは私は逃さない!そういう志で日々業務に携わっていたように思いました。村人からは「あなたの瞳はきらきらしてるよ!」と言われていました。数年前、企業版のふるさと納税の実績のあるコンサルティングを元なでして、ジャパンの宮間あやが市に紹介して、お話を伺った事があります。その時本市は、まだふるさと納税が今ほどではありませんでした。サイトが1つではねえ、サイトにも色々ありますが、との意見に、担当課は努力して3つに増やし、返礼品も考えて行動された所、現在では8億とも9億とも公表されておりますけれども、この納税金の約半分が一般会計に入るのですね。また、企業版ふるさと納税については、当時、受け入れる状況にありませんでしたが、担当課の努力により現在は受け入れる事が出来るようになっております。全国での成功例を資料に基づいて説明を受

個人質問

私はチャンス

宮間 文夫 議員



私はチャンス逃さない前に進むだけ！

けました。スポーツの地域おこしではねえ、ということ、チャンス逃したように思います。それでは質問に入ります。

問 財政について。

答 本市の財政状況ですが、法人市民税や固定資産税などの市税収入が少なく、自主財源に乏しい脆弱な財政体質となっております。

問 大網駅東側ロータリーの混雑解消について。

答 限られた敷地の中では抜本的な解決に至っておらず、対応に苦慮しているのが実情です。

問 大網駅南側について。

答 新たな市の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくりの実現に向け、去る10月30日の設立総会において、大網駅南地区まちづくり協議会が発足したところでございます。

問 白里地域の活性化について。

答 自然に恵まれた白里地域のにぎわいの創出や活性化に向けた取組といたしましては、本年4月から千葉県より開発許可事務についての権限が移譲されました。これにより市街化調整区域における建築物の立地要件を緩和し、白里地区海岸部一帯への通年型海浜レクリエーションに資する施設が立地可能となるよう、新たに許可条件に加え運用を開始したところでございます。これにより海岸地域の活性化につながる施設の立地が期待できるほか、少子高齢化が進む白里地域への移住や定住に繋がるものと期待しております。白里地域に1年を通して訪れることが出来る交流拠点施設の整備につきましては、新たなにぎわいや地域の雇用の創出など地域の活性化を図るためにも必要なものと考えております。

